この物語に登場する人・モノ・場所

モドキ

主人公のモドキは、川越市で里神楽に取り組んでおられる「梅鉢会」の神楽師・白石信人さんが演じています。モドキとは真似をするの意味。神楽の登場人物。身に着けているお面も実際の神楽で使われているものです。

里神楽梅鉢会　Instagram　Facebook

ヤギ

旅の道連れとして登場するのは、熊谷市のソーシャルファーム「埼玉福興」で飼われている子どものヤギさんです。
撮影現場までの運搬や現場でのお世話は、毛呂山町の「ヤギワールド」が担当してくださいました。

埼玉福興（株）　X（Twitter）

木遣歌（きやりうた）

森の中に突如現れたのは、「川越鳶組合 木遣保存会」に所属する鳶職人のみなさんです。その昔、巨岩や大木を運ぶときに力を合わせるために歌われた労働歌である「木遣歌」。深い森の中に響き渡るその歌声で現場は荘厳な雰囲気に包まれました。

川越鳶組合 木遣保存会

ロケ地

第３章（地の章）は、埼玉の「地」のパワーを感じる滑川町の深い森の中で撮影されました。

シカの骨

シカの骨は、秩父郡横瀬町の山奥で鳥獣の適正管理や狩猟の文化を現代につなげる活動に取り組む「カリラボ」からお借りしたものです。

カリラボ　Instagram　Facebook

身につけているモノ

モドキが履いている足袋は、かつて「日本一の足袋のまち」と呼ばれた行田市で足袋作りを続けている「イサミコーポレーション」による「イサミタビ」です。ひとつひとつ丁寧に手作りで作られています。

（株）イサミコーポレーション　Instagram　X（旧Twitter）

モドキが羽織っている半纏は、八潮市の「相澤染工場」で、伝統的技法によって作られた藍染の半纏です。

（有）相澤染工場
Instagram　X（旧Twitter）